

令和4年度「ながさき水産業大賞」受賞者の概要

1. 長崎県知事賞

部門名	受賞者名	概要
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	タチカワ ヨウスケ 立川 容介 (対馬市)	3D-GPSプロッタで操業海域の地形を三次元画像として把握し、自身でCTD観測した水温データと漁獲実績から、水温に応じて移動するアカムツの生態を踏まえた理想の操業ラインを設定。さらに自動操舵装置を連動させて、延縄を設定ラインに正確に敷設し、最小経費で最大利益を得る操業スタイルを確立。 海況予測モデルづくりにも参加する経験と勘に頼らない新しい漁業スタイルは、地域漁業者の経営計画にも応用され、スマート漁業の牽引モデルとなっている。
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	ニッショウ 日昇漁業株式会社 (対馬市)	「くちばし抜きスルメイカ」等、漁獲物の高付加価値販売に積極的に取り組み経営安定を図るとともに、Iターン者である社長ならではのインターネットやSNSを活用した独自の求人活動により、島外からの雇用を拡大。社員が地元上対馬に馴染み、地域貢献もできる存在となるよう、きめ細やかな気遣いを持った社員教育を実践。 高校生の漁業インターンシップ受入先や、就業支援フェア等を介した短期漁業体験受入先としても協力を惜しまず、地域漁業に触れる貴重な窓口となっている。
魅力ある 漁村地域部門	ヒサカジマ 久賀島漁業集落 磯焼け対策事業 (五島市)	久賀島はマフリの一大産地だったが、近年は磯焼けが原因と思われる水揚量の減少が生じた。その対策として磯洗い(磯の付着生物の除去)及びジョウロを用いたマフリの孢子散布を行っていたが、作業時に磯からの転落等の危険を伴っていた。そこで、高圧ポンプを用いた船上から安全・短時間かつ広範囲に孢子の散布が可能な手法を開発し、作業時の安全確保とマフリの水揚量増加に成功。 同手法は、高齢な漁業者でも実施可能であり、かつ、潮間帯に生育する有用海藻にも応用可能なことから、今後各地で活用されることが期待される。

2. 長崎県漁業協同組合連合会長賞

部門名	受賞者名	概要
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	株式会社 ミイラク 三井楽 定置 (五島市)	定置網の改良や近代化した大型船の導入により、操業の省人化と効率化、維持管理費の削減を図り、経営改善を実現。脱血神経メ冷却、活魚出荷や出荷調整による魚価向上に加え、未利用だったカンパチ幼魚の養殖用種苗としての供給等にも取り組んだことで、水揚げが大きく増加。 また、従業員の雇用条件改善にも取り組み、UIターンの若者も就業するなど、地域の活性化に大きく貢献。
魅力ある 経営体部門 (技術・担い手の部)	ヤマシタ ヨシノ 山下 好則 (西海市)	大島沿岸で深刻化する磯焼けに危機感を覚え、「大島の海を後世に残したい」との思いから、平成18年から一度も途切れることなく多くの子供たちに地元水産業や藻場保全活動等に関する学びの場を作ってきた。同氏の働きかけにより、現在では、地域の小・中・高校や異業種等との連携により、質の高い体験プログラムを行ってきたことで、子供たちの海洋環境保全や水産資源保護への関心を高め、持続可能な水産業に向けた教育活動の一助を担っている。
魅力ある 漁村地域部門	オオセトチヨウ 大瀬戸町漁協 タコ部会 (西海市)	昭和44年の発足から大瀬戸町漁協でのたこつぼ漁業の繁栄を長年支え、各漁業者の操業場所を毎年くじ引きで決めることによる操業の公平性確保や漁獲効率が高い蓋付ツボの使用制限、マダコ産卵ツボの設置等資源管理に取り組んできた。近年では県総合水産試験場の協力の元、効果的な産卵ツボによる産卵場の造成手法を研究し、マダコ資源の持続的利用と水揚げの安定確保に努めている。 また、活魚出荷が主体であったマダコを漁協と連携し、ボイル加工品「ゑべす蛸」として商品化する等、マダコのブランド化や認知度向上、販売促進等にも貢献。

3. 特別賞(ながさき水産業大賞運営委員長賞)

受賞者名	概要	
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	イサハヤワン 諫早湾漁協 小長井直売店 (諫早市)	漁協直売店ならではの生産者の顔が見える店として、消費者が安心して地元鮮魚を購入したり、カキやアサリが手軽に地方発送可能となっている。また、直売店オープン時から実施しているカキ焼きやカキ祭り等のイベントにより「小長井牡蠣」の知名度が向上し、カキを主力商品として販売高が右肩上がり、漁家収入増に寄与。 さらに、カキ焼きは地元の冬の風物詩となり多くの集客につながり、地域の活性化にも貢献。
魅力ある 漁村地域部門	ツナシマ 綱島地区 藻場保全組織 (対馬市)	対馬市内で初めて湾を網で仕切る保護区域の設定に取り組み、藻類は食害に遭わなければ生長することを実証。さらに現在では、山林から沿岸への泥水流出防止を目的とした植林活動に加え、樹木や下草保護に対する有害獣であるシカ、イノシシの狩猟にまで活動を広げている。 10年以上の長きに亘って熱意をもって取り組む地域の姿勢は、他の活動地区の手本となり、藻場回復・保全活動は現在、対馬全島域43地区まで広がっている。
魅力ある 経営体部門 (経営強化の部)	マツノ 有限会社 松園水産 (新上五島町)	自社の定置網で漁獲した魚を原料に、加工、販売までの6次産業化に取り組み、コロナ禍においても安定した経営を継続。鮮度にこだわった、鮮魚BOXやワンフローズン加工、紫外線海水殺菌装置の導入など、安心・安全な商品の販売を手掛けている。また、大都市圏への直売や物産店出品により島外への販売促進を図り、定期的な朝市開催による地元の魅力発信及び活性化に貢献。